

きりゅう 市議会だより

平成19年11月1日

No.207



雨模様の中、華麗に舞う前田原獅子舞まえたばらししまい（黒保根町下田沢）

平成19年第3回定例会は、9月3日(月)に招集され、9月25日(火)までの23日間の会期で開かれました。

この定例会では、市長提出議案18件の審議を行い、それぞれ可決・同意しました。

また、議員提出議案3件の審議も行い、否決しました。

主な掲載記事

- 一般質問を23議員が行う……………2～6
- 平成18年度決算を認定……………6～7
- 請願・陳情の審査結果……………8
- 主な議案……………8

少子化対策

河原井 始（クラブ21）

質問 少子化対策への考え方はどうか。

（子育て支援センター）



答弁 少子化対策は国家的な問題であり、効果がすぐ現れるものではなく、中・長期的に行わなければならないと考えている。社会保障制度の充実と環境整備を行う上で、あらゆる分野から考え、若い人が結婚し子供を産み育てる中で不安のない、若い人が集まって来るまちづくりを目指していきたい。そのために、平成十九年度導入の「病児・病後児保育事業」また「仕事と子育てのための雇用環境の整備」に視点を置いた施策を講じていきたい。

認知症の現状と対策

田島 忠一（愛・桐生）

質問 認知症の人が利用できる施設数と定数はどうなっているか。また、今後の予定はどうか。

答弁 施設については、認知症対応型共同生活介護いわゆるグループホームであるが、現在市内に九施設十二ユニットで、定員は百八人である。今後の予定としては、平成十九年度・二十年度に各一施設一ユニットづつが整備され、定員は十八人増加の予定である。

地域バイオマスの利活用

周東 照二（公明クラブ）

質問 経済産業省「バイオマス等未活用エネルギー事業調査事業」の利用や、間伐材など地域バイオマスの利活用の推進について、どのように考えるか。

答弁 同調査事業については、現在作成中の「桐生地域新エネルギービジョン」の中で、本市の新エネルギー全般にわたる潜在的なエネルギー量などの調査を実施するので、その必要性を検討していきたい。また、再生可能な山林資源の利活用には期待しており、今後、県や関係団体との連携や模索、産学官の推進などを通じて取り組みたい。

（市内の山林）



有害鳥獣対策

新井 達夫（愛・桐生）

質問 農林業経営や住民生活を安心して営むために有害鳥獣対策について、どのように行っているのか。

答弁 有害鳥獣対策は、猟友会と連携してオリヤワナによる捕獲や猟銃による捕獲事業などを行っている。また、黒保根町と隣接する袈裟丸山の鳥獣保護区の見直しについては、野生鳥獣による被害が多いため、様々な意見を聞く中で群馬県などに働きかけたい。なお、

（捕獲されたイノシシ）



猟友会への支援は、実情に沿った柔軟な支援や猟友会の高齢化などを踏まえた捕獲体制を検討し、有害鳥獣対策を考えていきたい。

観光について

細谷 昌弘（クラブ21）

質問 桐生八木節まつりで行う「まゆ玉ころがし」

（まゆ玉ころがし大会）



を全日本大会として開催できないか。また、おりひめバスを使ってありのままの桐生を観光客に見てもらおう「すっぴん桐生の大冒険」を実施できないか。

答弁 桐生八木節まつりの主要行事のまゆ玉ころがし大会を全国規模にすることは、集客面で有効であり可能と考えられるので、まゆ玉ころがし大会の実行委員会にその旨を伝え、協力していきたい。なお、「すっぴん桐生の大冒険」については、今後の観光施策を構築する上で参考としたい。

携帯電話メール配信

小野田 淳二（愛・桐生）

質問 緊急情報を市民の携帯電話のメールを配信す

（携帯電話）



る行政サービスについて、児童・生徒の安全確保や災害などに有効と思われるが導入を考えているか。

答弁 携帯電話のメールを活用した情報配信サービスは、学校周辺の不審者情報や緊急対応の伝達のほか、学級閉鎖など急な保護者への連絡など有効な情報伝達手段と認識している。しかし、導入には個人情報の管理や情報過多による不安感の増大などの課題や、配信ソフトなど経費面の問題もあるため、先進地の情報収集など先行研究を深めたい。

新健康フロンティア戦略

石井 秀子（友和会）

質問 女性専用の生活習慣病指導プログラムなどの必要性及び子供の健康づくりの取り組みはどうか。

答弁 コレスステロールや中性脂肪の基準値は、女性の場合年代により血中脂質値が変化しやすいため、女性の身体的特徴を踏まえた健康教育が必要と新健康フロンティア戦略の中にあるので、この健康教育について今後検討したい。また、乳・幼児健康診査において

（保健福祉会館）



肥満傾向と判定された子供には、栄養士や保健師が保護者からお話を伺い、改善する方法を示して実行するようお願いしている。

千網谷戸遺跡

星野 定利（愛・桐生）

質問 川内町三丁目にある千網谷戸遺跡は、学術的（千網谷戸遺跡）



に貴重な縄文時代晩期を代表する重要文化財であるが、見学できる施設は無い。現在、地権者と地元住民が保存と施設建設に協力機運のある中、千網谷戸遺跡を世に出して桐生を世界にアピールする考えはあるのか。

答弁 千網谷戸遺跡の史跡の指定について、地権者に史跡指定の同意は得られていないが、千網谷戸遺跡を広めようとする運動が行われていることは、地元で進展していると思われるので、その運動に沿って、よく検討して深めていきたい。

公正な職務執行

小滝 芳江（クラブ21）

質問 全国的に職員などへの口利きによる不正事件が起きているが、公正な職務執行を行うため、特定のな利益誘導の防止策について、どう考えているのか。

答弁 職員の倫理行動については、桐生市職員倫理規定を定めているほか、外部からの不当要求に対して要綱を定めて対処しており、今後も、倫理意識の自覚強化の体制づくりに努めたい。なお、公正な職務執行は、

（市役所）



職員に課せられた使命であり、できるだけ一人が関わることではなく組織的に対応し、対応の記録を残すことも検討していきたい。

ノコギリ屋根工場群の活用

荒木 恵司（愛・桐生）

質問 ノコギリ屋根工場をまちづくりの視点から活用（ノコギリ屋根）



用し、「織都桐生」と「球都桐生」を同時に感じられるノコギリ屋根工場を活用した「球都桐生野球博物館」についてどう考えているか。

答弁 近代の工場形態を残す貴重な建築物であるノコギリ屋根工場を活用した「球都桐生野球博物館」については、施設の所有者との調整や維持管理など解決すべき課題も多いが、桐生には野球に関する貴重な資料が多くあり、「球都桐生」と「織都桐生」の歴史を物語るものと捉えているので、引き続き検討を進めたい。

市立幼稚園について

庭山 由紀（薫風会）

質問 市立幼稚園の三歳児保育を四園で試験的に実施するのはどうか。全園で実施できないのか。また、平成十年に開園されたばかりの南幼稚園を廃園にするのは問題ではないのか。

答弁 市立幼稚園には未知の分野である三歳児保育は、園児を安全に育てるための経験や情報の不足に考慮し、試験的に導入したい。なお、行政施策はその置かれた状況下でなすべき最善

（南幼稚園）



の施策を考え実施されるもので、南幼稚園の建設は、当時の最善の判断だったと考えており、園舎の有効的な活用を検討していきたい。

子育て支援

森山 享大（愛・桐生）

質問 仮称群馬県子育て応援プレミアムカード事業（市内の保育園）



の進ちよく状況はどうか。

答弁 プレミアムカード事業は、ぐんまちよい得キッズバスポート事業に名称変更し十一月十八日に始まる。対象者は、中学生までの子供・妊娠中の人がいる世帯で、協賛ステッカーを掲示した協賛店舗において「ぐんまちよいバスポート」を提示することで、割引やポイントなどの特典が受けられる。なお、同事業の目的は地域・企業、行政が一体となって子育てを応援すること、桐生市でもその目的に沿った支援を行う。

時間預託制度

岡部 信一郎(クラブ21)

質問 相互の助け合いの中で、ボランティア活動を行った時間に応じた点数により、将来その点数分のボランティアを受けられる時間預託制度を導入し、介護保険料や介護サービスの利用料などの支払いに活用できないか。

答弁 時間預託制度は、NPOや任意団体などに登録した会員が、利用会員と協力会員として活動する相互扶助の活動であると認識

している。時間預託制度はすばらしい活動であるが、導入については関係機関を含め、今後の研究課題と考えていきたい。

(市民活動推進センター)



マニユフェスト

井田 泰彦(クラブ21)

質問 事業全体の取り組みとして、行財政改革の断

(市役所)



行をどう行っていくのか。

答弁 各事業全体の取り組み方は多種あり、来年度予算を考える中で検討しなければならぬが、ゼロベースとして見直し、新たにスタートするという意識を持ち、色々な人から意見を聞いて、もう一度全体で一丸となってこの厳しい財政状況の中でどのように桐生市を運営していくか、また将来に向け、どうあるべきかを考えていかなければならず、様々な角度から検討し、これからの桐生市をしっかりとやって行きたい。

県境道路

西牧 秀乗(友和会)

質問 境野町の境橋や産業道路の延伸、及び松原橋の右岸、左岸の道路延伸の取り組みについて、どのように考えているのか。

答弁 境橋については、架け替えや整備を桐生土木事務所にお願いをし、産業開発道路については、都市計画マスタープランにおいても位置付けており、今後も足利市と調整を図ってきたい。また、松原橋兩岸の道路延伸については地理

(境橋)



的条件や技術的においても多くの困難が予想されるが、国土交通省などの関係機関と連携を図りながら、研究していきたい。

再生资源持ち去り禁止

寺口 正宣(公明クラブ)

質問 再生资源持ち去り禁止に関する条例の施行後、成果はあったのか。

答弁 本条例は七月より施行され、ごみステーションに出された再生资源は桐生市に所有権があり、勝手に収集、運搬してはならないもので、施行後の持ち去りは減っていると思われるが、必要に応じてパトロールを実施したい。また、再生资源収集量は、対前年比で一・三倍、新聞紙は三



(リサイクルセンター)

広沢地区の道路対策

周藤 雅彦(クラブ21)

質問 北関東自動車道及び中通り大橋線の開通、側道の開通に伴う周辺道路の交通量の変化や安全性をどう考えているのか。また、渡良瀬川右岸側堤防下道路の拡幅をまちづくり交付金事業としてできないか。

答弁 広沢地区の交通量調査を県道、市道を含めて近々に行う考えである。また、周辺道路の安全性の構築については、歩道築造や水路の暗きよ化などできる



(広沢町の道路)

後期高齢者医療保険制度

中田 米蔵(日本共産党)

質問 後期高齢者医療保険制度の仕組みと相違点、及び国保の滞納世帯と滞納者についてはどうなるのか。

答弁 本制度は平成二十年度から施行され、七十五歳以上の後期高齢者を対象に都道府県単位で創設される独立した医療制度である。現行制度との相違点は七十五歳以上の方は広域連合の県内均一の保険料を負担することにあり、所得水準に応じて七割、五割、二割の

(保険年金課)



軽減措置が講じられる。また、国保税の滞納は新制度に引き継ぐことはないが、債務は残るので、滞納状況に変動はないと考える。

危険な信号機交差点の解消

笹井 重俊（日本共産党）

質問 市内の交差点、信号機において、交通実情に対応できていない場所が見受けられるが、どのように対応するのか。

答弁 相生町一丁目十四番地付近の交差点については、通常の信号機に変更する趣旨を桐生警察署に伝えたい。また、新宿三丁目県道桐生新田木崎線と新宿通り交差点については、二つの交差点が接近し過ぎていたので信号機の設置は難しい。

（相生町一丁目の交差点）



く、車両停止禁止ゾーンの路面表示の補修や注意喚起の看板の設置を土木事務所や地元町会と協議し、検討していききたい。

黒保根選挙区当選議員

七月二十二日の市議会議員補欠選挙（黒保根選挙区）で当選した議員は、次のとおりです。



新井 達夫
（愛・桐生）

- 常任委員会
産業経済委員会
- 特別委員会
交通対策調査特別委員会

平成18年度

決算を認定

平成18年度桐生市歳入歳出決算及び桐生市水道事業会計決算は、それぞれ賛成多数で認定しました。

同決算の認定にあたっては、監査委員による監査報告の後、各会派代表の議員（5人）が総括質疑を行うとともに、決算特別委員会（委員16人で構成）を設置し、2日間にわたり、慎重に審査を行いました。

総括質疑における、主な質疑に対する市当局の答弁は、次のとおりです。

合併の効果と現状の問題点は

合併の効果は、利用できる公共施設の増加、工業適地選定や定住促進施策など多様な施策が可能になるなどのスケールメリットによる効果が挙げられる。問題点については、一般的に規模が大きくなるときめ細かな行政サービスができなくなるなどといわれているが、特にそのような話しは聞いていない。なお、飛び地の

解消の取り組みについては、七月に広域調整室を設置し、みどり市と協同して行政事務現況調査を行っている。

経常収支比率については

経常収支比率は、市税など毎年経常的に収入があり自由に使える財源が、人件費や扶助費など経常的に支出される費用に充当される割合を見る指標で、財政構造の弾力性を判断する指標となっており、八十八パー

ごみ減量対策については

桐生市のごみの減量化施策への取り組みは、「桐生市ごみ減量化推進協議会」を中心に、官民一体となつた運動を展開しており、生

ごみ処理容器の購入補助のほか、買い物袋持参運動の推進、再生资源集団回収事業の推進などを行っている。特に、平成十八年度の集団回収事業については、登録団体数百六十三団体で、実施回数七百八十六回、総回収量二千五百六十三トンに上り、ごみの減量とリサイクルに貢献しており、登録団体数、実施回数、総回収量とも増加傾向にある。

障害者福祉については

障害者自立支援法は、平成十八年四月から一部施行、十月からの全面施行となり、原則一割負担導入に伴う利用者負担の増加などから不安の声が上がり、桐生市でも説明会を開催して円滑な施行に努めてきた。特に地域生活支援事業においては、負担をより小さくするため移動支援や日中一時支援においては積極的な給付に心掛け、相談支援やコミュニケーション支援についても福祉サービスを利用するための基盤づくりと捉え、整備を進めてきた。今後、利用しやすいサービス提供に努めていきたい。

ジョブカフェについて

平成十六年から始まった群馬県若者就職センター事業、通称「ジョブカフェ」は、開設以来予想を上回る高い利用率を集めており、平成十八年度の来所者七千二百七十一人、就職紹介千七十六件、就職者数五百四十四人となっている。特に平成十九年度からは、事業主体が国から群馬県に移管され、今後の自立化に向けて地元企業などを積極的に参入させる方式が取られており、桐生市においても地元産業界との関わりの強い北関東産官学研究会が県と連携し、ジョブカフェ事業



ジョブカフェぐんま

の一端を担っており、側面から支援していきたい。

林業の振興策については

桐生市の林業経営の現状は、木材価格の低迷や林業従事者の減少など課題が多く、群馬県や森林組合などの関係機関と連携した生産コストの低減化支援を継続的に行っている。また、林業従事者の確保と継続雇用のための福利厚生支援や林業整備活動支援交付金制度による支援なども行っている。その他、平成十九年度から三世代で居住するための木造住宅を建設する人を対象に桐生の木家づくり助成制度を始め、更なる林業振興に努めている。

普通教室扇風機設置事業については

児童・生徒の健康管理、学習環境の向上を図るため小・中学校の普通教室に各三台、幼稚園保育室に各二台、商業高校の普通教室に各四台の設置を平成十六年度から計画的に取り組みしており、平成十九年六月に商業高校の普通教室への設置

により、本事業は完了した。扇風機設置効果は好評を博しており、学習環境の向上に大きな効果があったと考えている。

水道再生マスタープランについては

平成十七年度、平成十八年度の二年間で作成した水道再生マスタープランの計



元宿浄水場

画内容は、「おいしい」「活力」「安全」の実現を目指し、元宿浄水場の早急に対策が必要な機械設備の更新などの五年後を目標にした短期計画、桐生川水源施設の整備計画の十年後を目標にした中期計画、集中監視システム構築の整備を計画するなどの二十年後を目標にした長期計画の三段階で計画を作成したものであり、これからの水道事業の指針となる計画である。

新里町の道路整備事業については

主要地方道前橋大間々桐生線と、県立ぐんま昆虫の森への南側からの入り口となる道路が交差する新川交差点改良工事については、



新川交差点

交差点部道路幅員が十二・七五メートル、一般部幅員が九・七五メートル、改良延長二百三十八メートルの路線であり、平成十八年度は用地買収及び工事が実施され、進捗率は事業費ベースで約六十五パーセントであり、平成二十年年度完成に向けて努力している。また、桐生広域と前橋広域を結ぶ南部幹線道路新設工事

人事案件

市議会は、次の人事案件二件に同意しました。

副市長

八木 計二氏
(新任)

教育委員会委員

東郷 直子氏
(新任)

は、総延長四千八百六十一メートルの路線であり、平成十八年度に測量調査設計を行い、進捗率は事業費ベースで約三・七パーセントとなっている。

賛成討論

平成十八年度決算は厳しい財政状況の中、実質収支比率、財政力指数、実質公債費比率など改善の方向であるが、財政力の弾力性を判断する経常収支比率が101.5%となったことは残念である。優良企業や若年層の市外転出が続き、高齢化と少子化が進む桐生市にとって税収減という厳しい状況からの脱却のため、平成十七年度から行革方針を打ち出し、職員削減など少数精鋭の組織への転換に取り組み、黒保根町の高齢者生活支援施設建設事業、消防車両更新事業、中通り大橋線事業、上毛線新駅整備事業、耐震診断設計及び補強工事の実施、水道事業における純利益の増加など市民生活の安定と福祉の増進などの諸事業に取り組み姿勢は評価できる。よって、賛成である。

反対討論

平成十八年度は、合併後最初の統一した予算が組まれて執行された1年間であり、この合併は新市建設計画に示された財政計画が矛盾を抱え、まともに説明ができないまま出発したものである。経常収支比率101.5%は、こうした財政計画のまま合併した結果である。三位一体改革や1市2村による合併によって出てきた財政矛盾を解決するために、行革によって市民へのサービス削減と負担増を進め、くらしや福祉、教育の施策を大きく後退させ、構造改革の名の下に、国が進めた税制改悪や社会保障制度改悪をほぼそのまま市民に押し付け、市民生活を支援しようとする姿勢がほとんど見られないなど多くの問題があり、賛成できない。



市議会本会議を 傍聴してみませんか？

本会議は公開されており、傍聴は受付で簡単な手続き（住所、氏名の記入）をすれば、どなたでも傍聴できます。

概要
（仮称）中通り大橋桁製作工事について、請負契約を二億八千九百三十五万九千円の契約金額で締結しようとするもの。

可決

（仮称）中通り大橋桁製作工事請負契約の締結について

概要
なお、本車両は、消防組織法に規定する緊急消防援助隊の登録車両として配備するもの。

可決
購入しようとするもの。

概要
新市建設計画に基づき、常備消防車両を計画的に更新し、消防体制の充実強化を図るため、三十五メートルはしご付消防自動車一台一億七千三百二十五万円で

可決

財産取得（三十五メートルはしご付消防自動車）について

主な議案

請願・陳情の審査結果

この定例会では、請願3件の審査を行いました。その結果、1件は不採択、2件は閉会中の継続審査となりました。また、陳情1件の審査も行い、趣旨採択となりました。

◎不採択となった請願

付託委員会	受理番号	件名
教育民生委員会	第4号	後期高齢者医療保険制度の大幅見直しを求める請願

◎閉会中の継続審査となった請願

付託委員会	受理番号	件名
産業経済委員会	第2号	「最低賃金の改善を求める意見書」提出についての請願
産業経済委員会	第5号	日豪をはじめとするEPA路線を転換し、自給率の向上と食糧主義にもとづく農政を求める請願

◎趣旨採択となった陳情

受理番号第1号…野間道場についての保存・移築先を桐生へ

お知らせ

議員の年賀状・寄付などは法律で禁止されています。

公職選挙法により、議員は次のことが禁止されています。市民の皆さんのご理解をお願いします。

- ◎年賀状などのあいさつ状を出すこと。
（答礼のための自筆のものは除きます）
- ◎寄付をすること。
- ◎本人が出席しない慶弔に祝儀や香典を出すこと。

◆次回定例会の開催予定は

12月3日(月)です。

市議会だよりは、紙面の都合で発言の一部（要旨）を掲載しています。

詳しくは、図書館で会議録をご覧ください。平成19年第3回定例会の会議録は、12月上旬からご覧になれます。

なお、会議録は桐生市ホームページでもご覧いただけます。

再生紙を使用しています。

一般会計予算の補正

平成19年度桐生市一般会計補正予算(第3号)

可決

本補正予算は、歳入歳出予算の補正、継続費の補正及び地方債の補正をしようとするもので、歳入歳出それぞれ8億9,860万8千円を減額して、一般会計予算総額を451億3,095万4千円となりました。歳出の主な補正の内容は次のとおりです。

- 民生費児童福祉費児童助成費
補正額…384万円の増額（すこやか児童手当支給事業）
【補正後の額…14億492万5千円】
- 衛生費保健衛生費（仮称）保健センター建設費
補正額…12億915万1千円の減額（（仮称）保健センター建設事業）
【補正後の額…0】
- 土木費道路橋りょう費道路橋りょう維持費
補正額…2,249万6千円の増額（狭あい道路整備事業）
【補正後の額…2億3,223万3千円】